

さて、現代を生きる臨床医として、**コラム 1** の作品をみてみましょう（野暮っ
ちゃあ、野暮ですが）。取り出した血管標本から原因がはっきりしたのであれば、
先ほど挙げた Triad からみた場合の③、すなわち、血管内皮細胞に何らかの障害
があったと考えられます。ただ、現代医療を学んだ身としては、やはり②の凝固
系亢進の有無は当然調べてほしいところです。

②の**凝固異常症**の代表的なものには、プロテイン C やプロテイン S 欠損症、
ループスアンチコアングラント (lupus anticoagulant ; LA), ATⅢ (アンチトロン
ビンⅢ) 欠損症などが挙げられます。こういった凝固系の亢進 (hypercoagulable
state) によって生じる血栓症はいろいろありますが、ここはざっくりと、2 大疾
患に絞ってしまいましょう。すなわち、

深部静脈血栓症 (DVT) および肺塞栓症 (PE) の 2 つ

です。

① ブラック・ジャックにみる血栓症患者の話

医療漫画の金字塔であり、医学生は、皆一度は読む必要がある故手塚治虫先生の代表作『ブラック・ジャック』。その作品の中に、「同じところに血栓形成をくり返す患者」の話があります¹⁾。くり返す血栓を外科的に治療するあたり、現代医療からは少し乖離しますが、まあ、これはご愛

嬌。問題は、その原因です。

作品の中では、ブラック・ジャックだけは原因を解明したようですが、「モグリ
の医者が資料なんかつくったって…、役には立ちませんよ」という理由で、その原因は「大学の偉い医師」(と読者) には明かされませんでした。



手塚治虫. 『ブラック・ジャック』文庫版 (8 巻), 「白い目」より (©手塚プロダクション)